

## 北区立浮間子ども・ティーンズセンター

### ～ うきまの みんなによる みんなでつくる ～ 「浮間このはまつり」

#### 取組の背景・目的

##### （背景）

浮間子ども・ティーンズセンターで例年開催していた「浮間このはまつり」は新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、開催中止が余儀なくされていた。しかし今年度は「待っている子どもたちのために」という想いのもと、地域との協議を重ね、感染症対策を考慮しながら3年ぶりに実施することが決定した。

開催にあたって中高生をはじめとする子どもたちにイベントの実行委員を担ってもらい、テーマ決めからコーナーの企画、運営などについて検討を進めていった。実行委員の中には、「小学生の頃から実行委員をやっていたので中学生になっても絶対参加したいと思っていた！」と、久しぶりの開催に懐かしさと期待を膨らませている中学生もいた。

中高生だけでなく、保護者からも「久しぶりにおまつりの雰囲気味わえて良かった」との声があり、地域の大人も3年ぶりの開催を待ち望んでいたようだ。

##### （目的）

浮間地域の大人と子どもたちによる子どもたちのための世代をこえた交流

#### 取組の概要

- 実施日 令和4年11月13日（日）午後2時～4時  
（午前は乳幼児親子対象に「あきのUKIUKIタイム」を実施）
- 実施場所 浮間中学校校庭および体育館
- 当日内容
  - ①ゲームコーナーの実施
    - 缶バッジ、射的、くじびき（小学生実行委員+直営職員）
    - 紙コップひこうき、わなげ、スーパーボール（小学生実行委員+委託職員）
    - スライム（中学生実行委員+直営職員）
    - みんなでチャレンジ（直営職員+青少年浮間地区委員会）
  - ②舞台発表
    - パントマイムショー（上演委託）
    - 西浮間ひろばダンスクラブ
    - ティーンズダンス
- 職員体制
  - ・児童館職員・放課後子ども総合プラン担当職員（直営）
  - ・放課後子ども総合プラン担当職員（委託）
- 実施方法
  - ・9月から子ども実行委員会を開催し、準備を進める
  - ・ゲームコーナー、舞台進行の役割分担を行う

## 工夫点・留意点

- ・「地域の子どもは地域で育てる」を念頭に置き、浮間地区青少年委員会や浮間中学校と話し合いを重ねながら地域で作り上げる行事にしようと意識した。
- ・浮間中学校、浮間図書館と協力体制を組み、複合施設ならではの利点を生かした。また、会場を学校の校庭にしたことで「地域に通う子どもたちに将来通うことになる場所に親しみをもってもらおう」というねらいも設けた。
- ・中高生の自主性を重んじるため、コーナーの企画や運営を考える子ども実行委員会を開催。子どもたちが意見を出しやすいよう職員も入り、和やかな雰囲気づくりを心掛けた。
- ・中高生が自分たちで作りに上げている行事だと実感できるよう、ポスター・チラシ作りから当日の司会まで、中高生が自ら担当した。司会の原稿は職員と一緒に考え、当日のオープニング進行、注意事項の説明など中高生から参加者に発信を行った。
- ・日頃から練習に励んでいるティーンズダンス（中学生によるダンスチーム）の発表の場を設けた。保護者や友達を招待することで一般観客だけでなく身近な人にも見てもらえるよう配慮した。

## 新型コロナウイルス感染症対策

- ・事前申し込みを行い、申込者には事前に体温を記録してもらう引き換えチケットを配布した。
- ・参加者の密を防ぐため、会場内の動線を一方向に設定し、カラーコーンを置くなどして参加者が間隔を把握しやすいよう工夫した。
- ・検温、手指消毒、マスクの着用を徹底した。

## 取組の効果

- ・子ども実行委員からは「事前の準備からしっかりと話し合いができた」、「意見を出し合うことができた」との声があった。また「とても楽しく良い経験ができた」との声もあり、子どもたちが事前の準備から当日まで楽しんで行事に携わっていた様子が伝わってきた。
- ・当日は急な雨が降ったが、子どもたちからは「大雨が降ったことでさらに仲間と協力してコーナーを運営することができた」、「大雨の対策は大変だったが、だからこそ仕事はとてもやりがいのあるものだと感じる事ができた」など前向きな感想があげられた。トラブルをバネに努力する子どもたちの逞しさや行事に対する積極的な姿勢を感じる事ができた。



## 課題・今後の展開

これまでは公園で開催をしていたが、今年度から中学校の校庭で開催をした。しかしながら、全体の参加者の中で最も中高生の参加者が少なかった。日常での利用は多いものの、行事になると参加者が集まらないという課題が浮き彫りとなった。今後、中高生との関わり方や行事への参加をどのように促していくか、彼らの声に耳を傾け、職員一同で考えながら取り組んでいきたい。